第５章

５疾病・６事業及び在宅医療の医療連携体制

第１節　がん
第２節　脳卒中
第３節　心筋梗塞等の心血管疾患
第４節　糖尿病
第５節　精神疾患
第６節　救急医療
第７節　災害医療
第８節　新興感染症発生・まん延時における医療
第９節　へき地医療
第10節　周産期医療
第11節　小児救急を含む小児医療
第12節　在宅医療

第1節　がん

1　現状と課題

（1）がんの患者数及び死亡の状況

令和3（2021）年1年間の新規入院患者数等は 72,527 人、延べ外来患者数は 795,775 人となっており、増加傾向です。（機能別医療機関現況調査　令和 4（2022）年）

令和３（2021）年のがんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）は67.9（男性：82.4、女性：53.6）となっています。（国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計（2021 年）」）

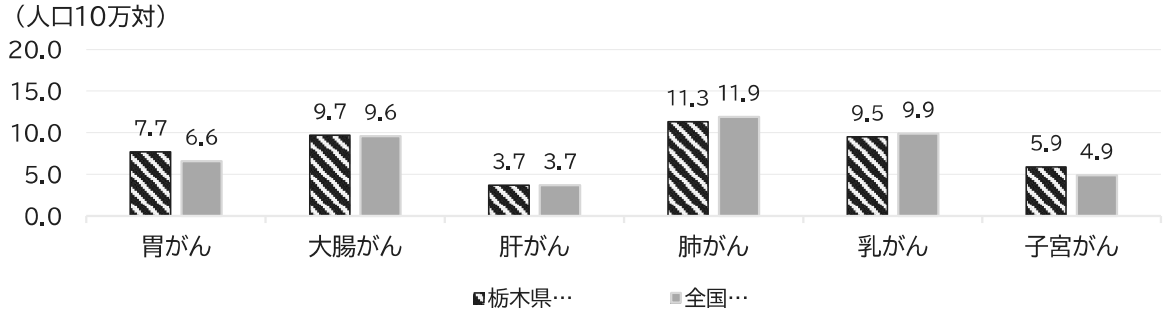
主ながん種別（大腸、胃、肺、肝、乳、子宮）の割合は、全国と比較しても大きく変わらない状況です。（「栃木県のがん 2019（令和元年）」）

図表 5-1-1：がんの 75 歳未満年齢調整死亡率（全がん・男女計）（人口 10 万対）



【出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」】

図表 5-1-2：がんの 75 歳未満年齢調整死亡率
（がん種別・男女計）（人口 10 万対）



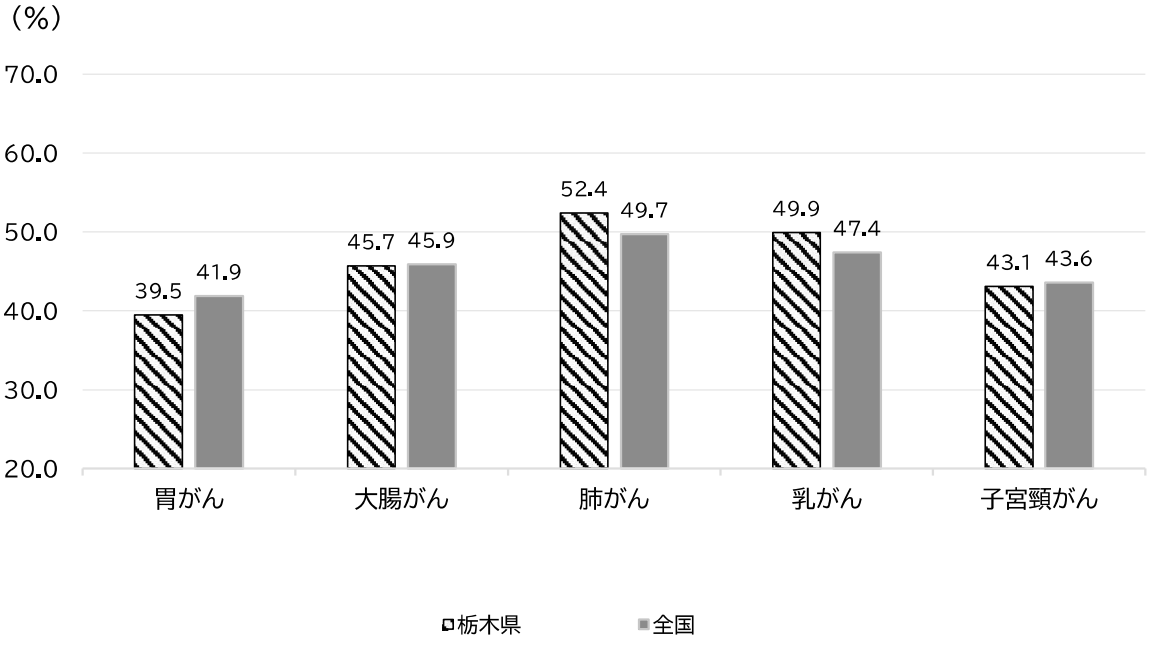
【出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（2021 年）】

（2） 生活習慣等の状況

肺がん、乳がんの検診受診率は全国値よりも高く、大腸がんはほぼ同水準、胃がん、子宮頸がんについては全国値を下回っています。

各がんの検診受診率は前計画の目標値に達しておらず、引き続き、受診促進を図ることが必要です。(「国民生活基礎調査　令和４(2022)年」)

図表 5-1-3:県内におけるがん検診受診率(男女計)



【出典:厚生労働省「国民生活基礎調査(2022 年)」】

（3） 医療の状況

二次保健医療圏毎に、専門的ながん医療の提供等を行う医療機関として「がん診療連携拠点病院」又は「地域がん診療病院」が合計8施設あり、さらに、拠点病院等と連携してがんの専門診療等を行う「栃木県がん治療中核病院」が合計 11 施設あります。

また、保健医療計画では上記 19 施設のほか、一定の要件(資料編「5　疾病・6事業及び在宅医療等における医療機能別の各医療機関等に求められる事項」参照)を満たした医療機関(前計画では 22 施設)について、がん診療機能を担う医療機関として認定しています。

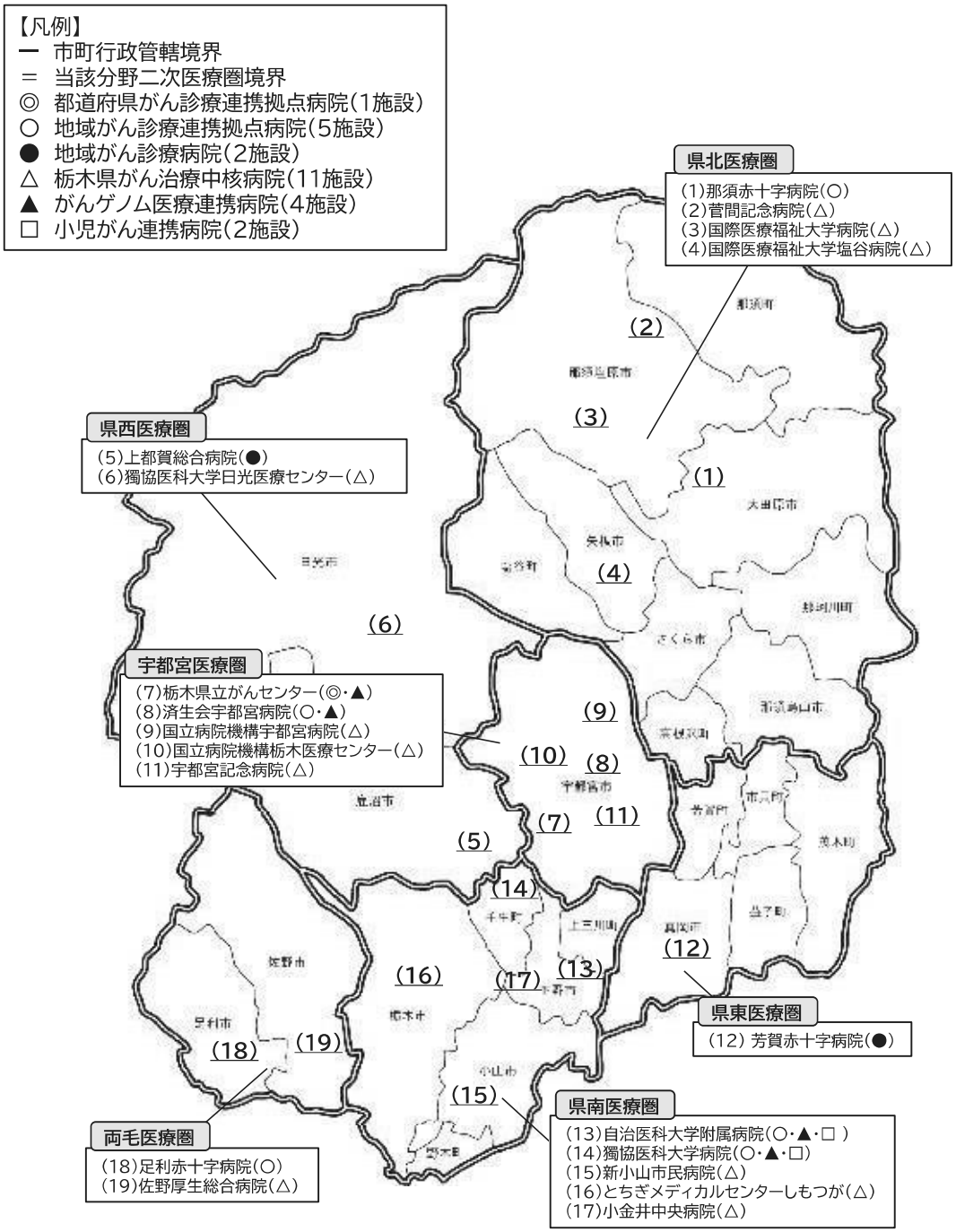
がんゲノム医療を提供する機能を有する医療機関として「がんゲノム医療連携病院」が、合計4施設あります。

小児がんへの質の高い医療及び支援を提供するため、「小児がん連携病院」が合計2施設あります。

2　医療提供体制に係る圏域

二次保健医療圏を基本的な単位とします。

図表 5-1-4：県内におけるがん診療提供体制（専門診療）



令和6（2024）年4月時点

3　分野アウトカム（目指す姿）-（A）

（1） がんによる死亡率が減少している。

（2） 全てのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質が維持向上している。

（3） がんになっても安心して暮らすことが出来る社会が構築されている。

4　中間アウトカム（分野アウトカム達成に必要な状態）-（B）

（1） がんの予防及び早期発見

がんの予防及び早期発見に向けた取組を実施します。

施策-（C）	
①	喫煙対策に関する効果的な普及啓発の実施
②	生活習慣（運動、食事、飲酒）の改善に関する効果的な普及啓発の実施
③	肝炎に関する普及啓発、肝炎ウイルス検査陽性者へのフォローアップ・治療の推進
④	子宮頸がん及び HPV[14]ワクチン接種に関する県民の理解の促進
⑤	がん検診の受診率・精検受診率向上に向けた取組の実施
⑥	がん検診の職域における取組の促進
⑦	がん検診の精度管理における取組の促進

（2） がん医療の充実

がん医療の充実に向けた取組を実施します。

施策-（C）	
⑧	拠点病院と地域の医療機関等との役割分担と連携強化の推進
⑨	地域の実情に応じたがん医療の均てん化・集約化の推進
⑩	がんゲノム・小児・AYA 世代のがん、希少がん・難治性がん等の医療体制の整備
⑪	緩和ケアにおける地域連携の促進及び提供体制の整備
⑫	がん医療に係る人材の確保及び育成等

（3） がん患者やその家族を支える環境整備

がん患者やその家族を支える環境整備に向けた取組を実施します。

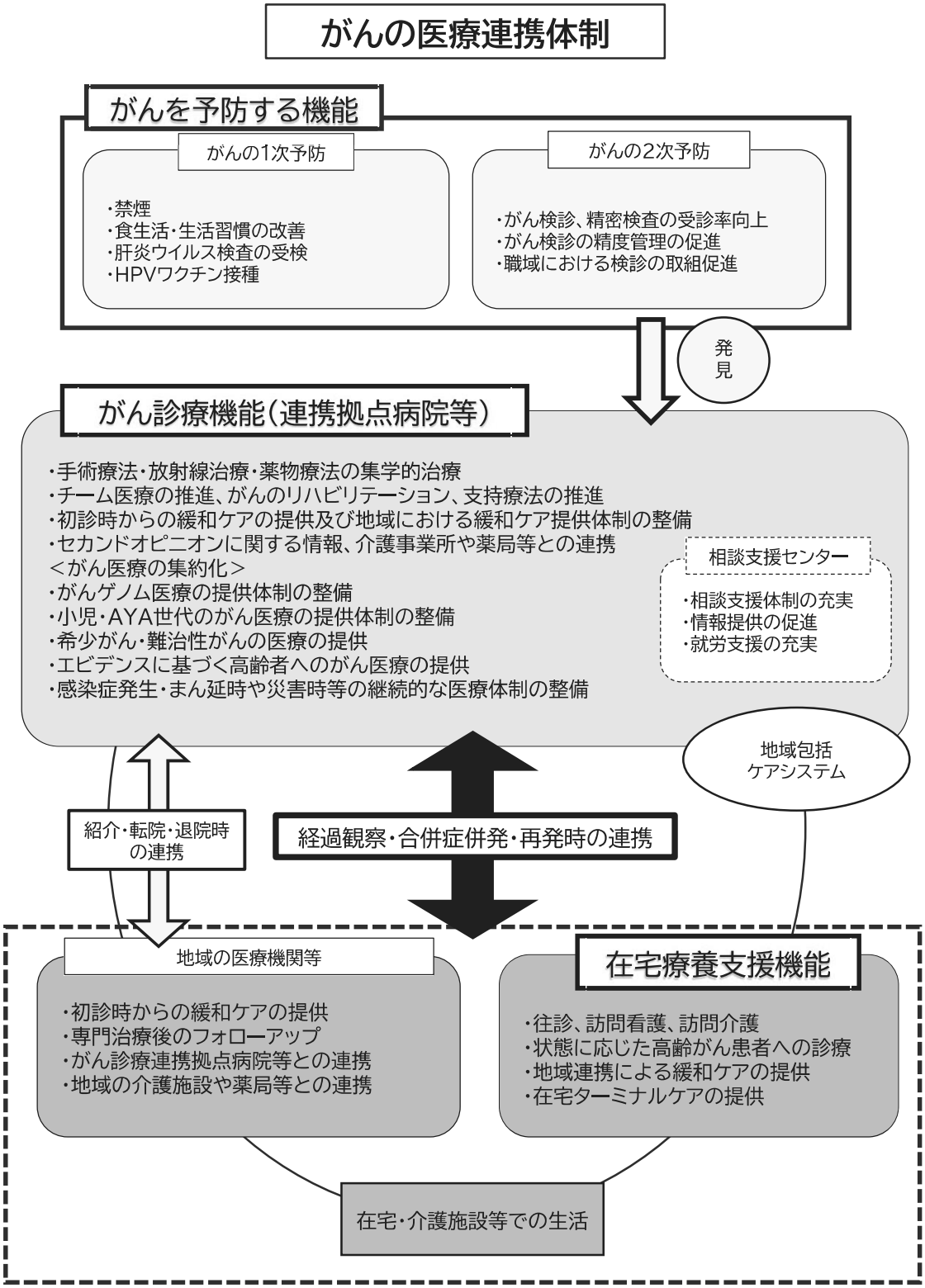
施策-（C）	
⑬	相談支援体制の充実
⑭	がん患者の就労支援
⑮	自殺リスクに対する相談体制の整備やがんの正しい理解への普及啓発
⑯	小児・AYA 世代のがん患者支援の充実
⑰	小児・AYA 世代のがん医療提供体制の充実
⑱	小児・AYA 世代のがん患者の保育環境・教育環境の充実
⑲	高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備
⑳	学校におけるがん教育を推進するための環境整備

[14] HPV:human papillomavirus の略で、ヒトパピローマウイルスのこと

5　医療連携体制図

「3. 分野アウトカム（目指す姿）」を踏まえ、以下のとおり連携体制の構築を図ります。（各医療機能の詳細については、資料編「5疾病・6事業及び在宅医療等における医療機能別の各医療機関等に求められる事項」を参照ください。）

図表 5-1-5：がん医療に係る医療連携体制図



6 指標と数値目標

分野アウトカム(目指す姿)-(A)

No.	項目名	指標名	現状値	目標値 (2029 年)
(1)	がんによる死亡率が減少している。	がんの 75 歳未満年齢調整死亡率 (人口 10 万対)	全がん 67.9 胃 7.7 大腸 9.7 肝 3.7 肺 11.3 乳 9.5 子宮 5.9 (2021 年)	減少
		5年相対生存率	全がん 63.9% 胃 62.7% 大腸 68.0% 肝 33.0% 肺 32.6% 乳 93.6% 子宮 79.3% (2009-2011 年)	増加
(2)	すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上している。	身体的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	60.8% (2018 年)	増加
		精神的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	65.1% (2018 年)	増加
(3)	がんになっても安心して暮らすことができる社会が構築されている。	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	81.0% (2018 年)	増加

中間アウトカム(分野アウトカム達成に必要な状態)-(B)

No.	項目名	指標名	現状値	目標値 (2029 年)
(1)	がんの予防及び早期発見	がんの年齢調整罹患率 (人口 10 万対)	全がん 377.5 胃 41.9 大腸 57.6 肝 12.1 肺 39.5 乳 100.0 子宮 33.9 (2019 年)	減少
		早期がん割合(全国がん登録:進展度・総合、上皮内と限局)	全がん 52.9% 胃 56.2% 大腸 58.5% 肝 63.3% 肺 33.4% 乳 64.5% 子宮 78.3% (2019 年)	増加

No.	項目名	指標名	現状値	目標値 （2029 年）
（2）	がん医療の充実	がんの診断・治療に対するがん患者の総合的評価 ※10 点を満点とする評価	8.0 点 （2018 年）	増加
		納得のいく治療を選択できたと思うがん患者の割合	75.8% （2018 年）	増加
		院内がん登録数	12,049 件 （2021 年）	
		手術件数	9,353 件 （2021 年）	
		薬物療法患者数	19,039 件 （2021 年）	
		放射線治療患者数	3,083 件 （2021 年）	
		緩和ケアチーム新規患者数	1,128 件 （2021 年）	
（3）	がん患者やその家族を支える環境整備	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	42.7% （2018 年）	増加
		がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人	68.9% （2018 年）	増加

施策-（C）

No.	項目名	指標名	現状値
①	喫煙対策に関する効果的な普及啓発の実施	20 歳以上の者の喫煙率	17.6% （2022 年度）
		受動喫煙の機会を有する者の割合（職場・家庭・飲食店）	職場 20.0% 家庭 4.3% 飲食店 13.1% （2022 年度）
②	生活習慣（運動、食事、飲酒）の改善に関する効果的な普及啓発の実施	食塩・野菜摂取量、果物摂取量 100g 未満の者の割合 運動習慣者の割合 リスク飲酒者の割合	食塩 9.7g/日 野菜 292.8g/日 果物 63.5% 運動習慣者（20-64,65-） 男 22.0%,55.1% 女 20.3%,45.1% リスク飲酒者（20-） 男 15.5% 女 9.4% （2022 年度）
③	肝炎に関する普及啓発、肝炎ウイルス検査陽性者へのフォローアップ・治療の推進	肝炎ウイルス検査受検率（国保加入者 40 歳検診対象者）	13.8%（B 型） 14.0%（C 型） （2022 年）
④	子宮頸がん及びHPVワクチン接種に関する県民の理解の促進	HPV ワクチン実施率	38.7% （2021 年）

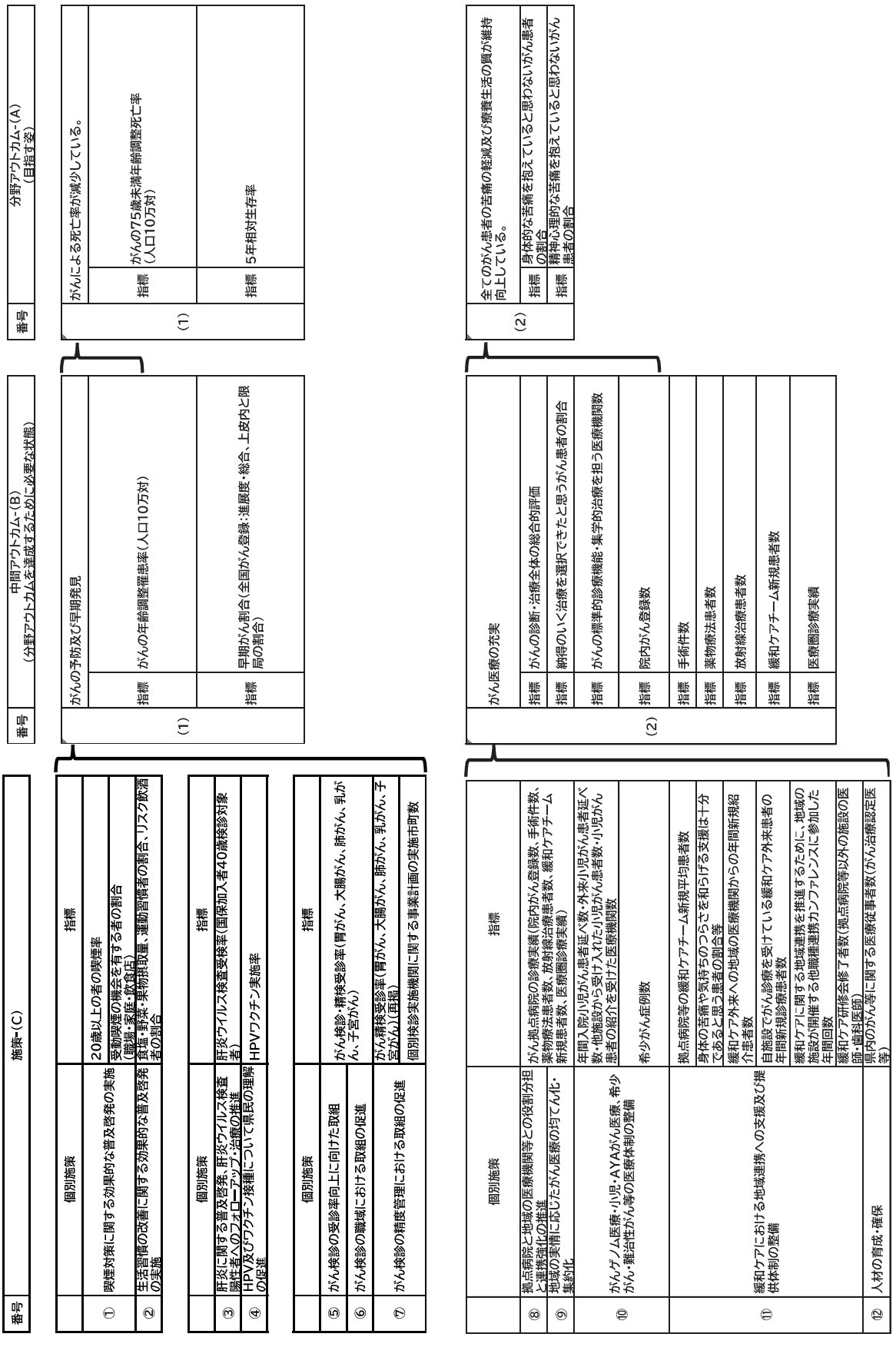
No.	項目名	指標名	現状値
⑤	がん検診の受診率・精検受診率向上に向けた取組	がん検診・精密検査受診率 （胃、大腸、肺、乳、子宮頸）	がん検診受診率 胃 39.5% 大腸 45.7% 肺 52.4% 乳 49.9% 子宮頸 43.1% （2022 年）
⑥	がん検診の職域における取組の促進		精密検査受診率 胃 86.2% 大腸 68.9% 肺 85.1% 乳 91.9% 子宮頸 86.5% （2020 年）
⑦	がん検診の精度管理における取組の促進		
⑧	地域の実情に応じたがん医療の均てん化・集約化	がん拠点病院の診療実績 ①院内がん登録数 ②手術件数 ③薬物療法患者数 ④放射線治療患者数 ⑤緩和ケアチーム新規患者数）	①12,049 件 ②9,353 件 ③19,039 人 ④3,083 人 ⑤1,128 人 （2021 年）
⑨	拠点病院と地域の医療機関等との役割分担と連携強化の推進		
⑩	がんゲノム医療・小児・AYA がん医療、希少がん・難治性がん等の医療体制の整備	小児がん診療実績（①年間入院患者延べ数②外来患者延べ数③他施設から受け入れた患者数④患者の紹介を受けた医療機関数）	①196 人 ②5,151 人 ③38 人 ④32 機関 （2021 年）
		希少がん症例数	177 件 （2022 年）
⑪	緩和ケアにおける地域連携の促進及び提供体制の整備	拠点病院等の緩和ケアチーム新規患者数	1,128 人 （2022 年）
		身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると思う患者の割合等	37.3% （2018 年）
		緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	55 人 （2021 年）
		自施設でがん診療を受けている緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数	625 人 （2021 年）
		緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数	38 回 （2021 年）
⑫	がん医療に係る人材の確保及び育成等	緩和ケア研修会修了者数 （拠点病院等以外の施設の医師・歯科医師）	300 人 （2022 年）
		がん治療認定医数	236 人 （2022 年）
		がん看護専門看護師数	16 人 （2022 年）
		放射線治療専門医数	18 人 （2022 年）
		がん放射線療法看護認定看護師数	6 人 （2022 年）

No.	項目名	指標名	現状値
⑫	がん医療に係る人材の確保及び育成等	放射線治療専門放射線技師数	27 人 （2022 年）
		がん薬物療法専門医数	10 人 （2022 年）
		がん薬物療法認定薬剤師数	16 人 （2022 年）
		がん化学療法看護認定看護師数	15 人 （2022 年）
		緩和医療認定医数	15 人 （2022 年）
		緩和薬物療法認定薬剤師数	11 人 （2022 年）
		緩和ケア認定看護師数	27 人 （2022 年）
		がん性疼痛看護認定看護師数	7 人 （2022 年）
		緩和ケア研修会修了者数（医師・歯科医師）	2,928 人 （2022 年）
		がん相談支援センター相談員指導者研修会修了者数	15 人 （2022 年）
⑬	相談支援体制の充実	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	92.2% （2018 年）
		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数	5,103 件 （2021 年）
		相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	121 人 （2021 年）
		ピアサポーター養成数	※
		患者サロン開催数	28 回 （2021 年）
⑭	がん患者の就労支援	がんの治療等のために通院しながら働き続けられる環境にあると思う県民の割合	25.0% （2022 年）
		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	40.1% （2018 年）
		拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	401 件 （2021 年）
⑮	自殺リスクに対する相談体制の整備やがんの正しい理解への普及啓発	精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 ※思わないと回答した割合	65.1% （2021 年）
		がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる割合	16.8% （2018 年）
⑯	小児・AYA 世代のがん患者支援の充実	妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費助成件数	19 件 （2022 年）
		アピアランスケア助成件数	849 件 （2022 年）
		在宅ターミナルケア実施市町数・助成人数	4 市・15 人 （2022 年）
		妊孕性温存療法実施指定医療機関数	3機関 （2022 年）
		ピアサポーター養成数	※
		患者サロン開催数	28 回 （2021 年）

※　令和 6（2024）年から登録のため数値なし

No.	項目名	指標名	現状値
⑰	小児・AYA 世代のがん医療提供体制の充実	小児がん診療実績 ①年間入院患者延べ数 ②外来患者延べ数 ③他施設から受け入れた患者数 ④患者の紹介を受けた医療機関数	①196 人 ②5,151 人 ③38 人 ④32 機関 （2021 年）
⑱	小児・AYA 世代のがん患者の保育環境・教育環境の充実	入院中の小・中・高校生に対する学習支援延べ件数	106 件 （2022 年）
⑲	高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備	人生会議（ACP）に係る認知度	21.4% （2022 年）
⑳	学校におけるがん教育を推進するための環境整備	がんについての認知度（治療法等）	69.8% （2022 年）

7　施策・指標体系図（ロジックモデル）



番号	（C）施策

番号	（B）中間アウトカム（分野アウトカムを達成するためにクリアすべきステップ）

番号	（A）分野アウトカム（あるべき姿）

	個別施策	指標			
⑬	相談支援体制の整備	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	（3）	がん患者やその家族を支える環境整備	がんになっても安心して暮らすことが出来る社会が構築されている。
		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数		指標：家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	指標：現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合
		相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数		指標：がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人	
		ピアサポーター養成数			
		患者サロン開催数			
⑭	がん患者の就労支援	がんの治療等のために通院しながら働き続けられる環境にあると思う県民の割合			
		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合			
		拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数			
⑮	自殺リスクへの相談支援やがんの正しい理解に向けた普及啓発	精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合			
		がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる割合			
⑯	小児・AYA世代のがん患者支援の充実	妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費助成件数			
		アピアランスケア助成件数			
		在宅ターミナルケア実施市町数・助成人数			
		妊孕性温存療法実施指定医療機関数			
⑰	小児・AYA世代のがん医療提供体制の充実	年間入院小児がん患者延べ数・外来小児がん患者延べ数・他施設から受け入れた小児がん患者数・小児がん患者の紹介を受けた医療機関数（再掲）			
⑱	小児・AYA世代のがん患者の保育環境・教育環境の充実	入院中の小・中・高校生に対する学習支援延べ件数			
⑲	高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備	人生会議（ACP）に係る認知度			
⑳	学校におけるがん教育を推進するための環境整備	がんについての認知度			